

防災・減災部門

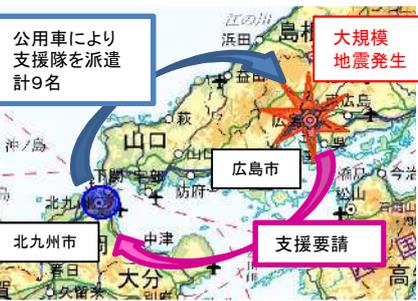
応募事例名

支援・受援体制構築のための合同訓練の実施

応募団体名) 広島市・北九州市

近年、全国的に大規模災害が頻発する中、被災都市だけでの下水道施設の早期復旧は困難であり、支援・受援体制の構築の重要性がより一層高まっています。これを踏まえ、広島市及び北九州市では、災害時における支援・受援体制の強化を目的として、2都市合同での下水道BCP訓練を実施しました。

支援要請・支援隊の派遣



図上訓練



住宅地図や下水道台帳図、仮想調査報告書に基づき、現地調査(マンホール開閉)箇所を決定

仮想調査報告書



〔被災例〕

- ・井口高校北側で汚水の溢水
- ・西部埋立公園の北側で道路陥没

意見交換会



調査手法や受援体制等について意見交換

現地訓練



図上訓練で決定した調査箇所でのマンホール内調査

マンホール内条件札の確認後、図上訓練の妥当性を検討したうえで調査報告書を作成

合同班は、管口カメラを使用した管内調査を実施

マンホール内条件札

マンホールに付与した仮想被災状況を記した条件札

〔18番マンホール〕

- ・下流側管口が破損し土砂流入
- ・北側、南側は異常なし

〔19番マンホール〕

- ・下流側管口滞水
- ・マンホール内クラック3か所3cm

より実効性のあるBCPへの改訂

PRポイント

- 1 実際の災害時を想定した訓練の実施
支援都市が実際に受援都市へ支援隊を派遣し、合同訓練を行うことにより、実災害時に近い形での訓練が実現した。
- 2 臨場感のある訓練の実施
あらかじめマンホール内に被災状況を記した「マンホール内条件札」を設置しておき、現地で実際にマンホールを開けるまで管内被災状況がわからないようにすることで、より臨場感のある訓練が実現した。
- 3 より強固な支援・受援体制の構築
合同訓練を実施し、支援・受援それぞれの立場から意見交換を行うことで、より強固な支援・受援体制の構築が実現した。